

平成27年度 第2回健康長寿のまち・京都推進本部会議 摘録

- | | |
|------|------------------------------|
| ○ 日時 | 平成27年11月2日(月) 午前9時20分～10時00分 |
| ○ 場所 | 京都市役所本庁舎E・F会議室 |

居内保健医療・
介護担当局長

皆様おはようございます。

ただ今から健康長寿のまち・京都推進本部会議を開催させていただきます。

平素から健康長寿のまち京都の推進に多大な御協力を賜っておりますことをこの場にて御礼申し上げます。

本日は貴重なお時間をいただいております。ありがとうございます。

さて、健康寿命延伸の取組につきましては、本年の6月に健康長寿のまち・京都推進本部を設置させていただいて以降、各局区等の皆様の事業の融合により、多様な健康づくりの機会の創出や効果的な普及啓発等の機運づくりにつきまして、関係部長の皆様による4回に渡るプロジェクトチーム会議などでの御意見をいただきながら、これまで検討を進めてきたところでございます。

本日は第2回目の本部会議といたしまして、健康長寿のまち・京都推進プロジェクトとして、基本的な方向性と具体的な案について、皆様と認識の共有を図り、今後の方向性につきまして、意見交換を行って参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、本部長の藤田副市長から御挨拶をお願いいたします。

藤田副市長

改めまして皆様おはようございます。

第2回の健康長寿のまち・京都推進本部会議の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本年6月にこの本部を立ち上げました。その際には市長にも御列席いただき、訓示をいただいたところではありますが、本部を立ち上げて以降、皆様には着実な取組を進めていただき、心強く思っているところであり、形が少しずつ見えてきていると思っております。

特にプロジェクトチームとして各局区での御検討、また若手職員の検討チームでの御検討など、私も第1回の若手職員検討チーム会議の冒頭の委嘱状交付式に参列しましたが、各局区から手を挙げ、推薦され、集まっていた、若手の健康づくりの取組を自らの活動としてやっていきたいという、熱い職員が数多く、ありがたく心強く思いました。

同時に、各局区の関係施策の融合についても、この時期、来年度予算の編成に向けた対応等が始まっております。そうした様々な機会に「健康づくり」、「健康」という施策をキーワードにした、今までの医療、あるいは福祉といった分野だけでなく、さらに言えばハード部門の取組も含めて、そうした健康にどのように寄与していくのか、また健康づくりということを市民の皆様の共通のコンセプトにしていくためのまちづくりをどういう風に進めていくのか、そうした仕組みづくりについて、スピード感を持ちながら検討していきたいと思っております。これからもよろしくお願ひしたいと思っております。

その中で、この後に報告がありますが、11月29日に、これまでから開催していましたが、「すこやかフェア」の中でキックオフイベントを市長も呼んで開催する予定です。この取組は、屋上屋でなく、何かイベントするとかではなく、既に定着している「すこやかフェア」を一つのネットワークとして広げていく核としていこう、特に市民団体、事業所等に関わっていただいて、一気に健康づくりの機運を盛り上げていこうということになっています。それぞれ事業に忙しいところかと思いますが、このキックオフイベントを、大きな意味での出発点としていただいて、いよいよ本格的なスタートをしていくということで御理解いただきたいと思っております。

特に今申し上げた市民の皆様、市民団体の参加というものをこの健康づくりの中では、最重視しており、健康づくりをやっていくのに、行政が条件を作っていくのは大事ですけど、やはり当事者である市民の皆様、あるいは御家族や地域の方が健康づくりのために、自分がどのようにライフスタイルを変えていくのか、あるいはまちの在り方について、どのように変えていくのか、当事者意識を持って取り組んでいくのか。どういうことが最重要課題となってくるのか、京都市が持っている、「ならでは」の市民力、地域力といったものを最大限に活用していく、そしてそこに局区の縦割りを廃した京都市の職員力といったものをしっかりと機能させながら、取り組んでいく必要があります。

先ほど申し上げましたとおり、健康という概念は、大変幅広い概念があります。医療面での日常的に健康診断を受けていただく、体の健康に気を付けて生活を送っていただく、これは大事ですけど、精神的な部分、自分が社会の中で役に立っていく、ボランティア活動でありますとか、また生涯学習によって生きがいを感じる、更には防災、安心安全、子育て支援、子どもの見守り等々、様々な場面で自主的に活動いただくことが健康づくりの秘訣だと思っておりますし、その健康づくりが進むことで、結果として、例えば医療費の削減や経済効果というものも副次的な形で表れてくる、一石二鳥にも三鳥にもなってくる

取組となってくると考えております。

それでは、第2回の推進本部会議を契機にさせていただいて、かつ市区ごとにそれぞれの職員、最前線の職員、職場も含めて、また一見、健康づくりとは縁の遠い部署とっておられるところについても健康づくり、健康長寿をキーワードとしていただき、今までの施策を総点検いただき、こういう視点なら取り組める、あるいはこの視点は今まで少し欠けていたな、というようなことなどを、しっかりと取り組んでいただく機会にさせていただきたいと思っております。また、周辺におられる各団体、市民の皆様に対して、特に区長の皆さんには、様々な場面で市民の皆様と直接語りかけられる場面があるかと思っておりますので、健康づくりのためにどのようなことをしているのか、また京都市が門川市長を先頭にどのような取組をしているのか、しっかりとお知らせさせていただきたいと思っております。

是非そのようなきっかけになりますことを祈念いたしまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

居内保健医療・
介護担当局長

ありがとうございました。

それでは、早速ではございますが、議事に移らせていただきます。

健康長寿のまち・京都推進プロジェクトに係る基本的な方向性と具体的な取組案につきまして当会議事務局の松田保健衛生推進室長から御説明させていただきます。

松田保健衛生
推進室長

失礼いたします。それでは、お手元に配布しました、配布資料に基づいて、御説明申し上げます。

まず、1ページ目の「1 基本的な方向性」についてでございます。

「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」の目的につきましては、「一人ひとりの市民自らの継続的な健康づくりの取組を、市民力や地域力を源泉として、全ての市民が参加する運動に広げることで、市民の健康寿命を平均寿命に近づけ、年齢を重ねても地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現する。」ということでございます。

そのための仕組みづくりといたしまして、「健康長寿のまち・京都推進本部」におきまして、徹底的な庁内連携等による検討を進めてきたところでございますが、今後、これまでの「推進本部」での検討結果を踏まえ、まずは、健康寿命の延伸に向けた理念の浸透を図り、市民全体の機運を盛り上げる取組を速やかに実施して参ります。

その土台の上に立ちまして、一人ひとりの市民が自分に合った取

組に参加できますよう、多様な健康づくりの機会の創出や情報提供の充実に向けた取組を来年度から本格的に実施して参りたいと考えております。

2ページをお開きください。その具体的な取組の案でございます。

「(1) 健康寿命の延伸に向けた機運の醸成」についてでございます。4つの取組の案を掲げております。

アにつきましては、健康づくりをオール京都の取組として推進するため、幅広い市民団体、民間企業等によります「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」を立ち上げさせていただき、その準備段階として今秋に準備会を設置いたしますとともに、市民の皆様へ健康寿命の延伸に向けました理念の浸透を図るため、更なる賛同団体の拡充を呼びかけて参りたいと考えております。

イでございます。「市民すこやかフェア」と連携した「健康長寿のまち・京都」キックオフイベントの開催など、関係各局区等と連携いたしまして、様々な機会を活用した普及啓発を実施いたします。

ウでございます。市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組んでいただくために、広く市民の皆様にご共感していただける「健康長寿のまち・京都」の目標及びロゴマークにつきまして、市民公募を行って参ります。

エでございます。準備会に参画いただくマスコミ及び出版社等の協力も得ながら、「健康長寿のまち・京都」の取組の市民周知に努め、戦略的な普及啓発を実施して参ります。

次に「(2) 多様な健康づくりの機会の創出」に係る具体的な取組の案でございます。

アでございます。「市民会議」構成団体間の相互交流・連携によりまして、幼少期、青年期、高齢期といったライフステージ、食生活や運動といった活動分野、さらに地域・職域ごとの健康づくりを推進して参ります。

イでございます。「市民会議」に参画いただく大学や寺社仏閣、健康づくりの関連企業等に、健康づくりの活動の場や機会の提供に係る協力を呼びかけて参ります。

ウでございます。ポータルサイトの開設によりまして、本市の事業のみならず、「市民会議」の構成団体の事業等も含めました多様な健康づくりの情報発信に向けた取組を検討して参ります。

3ページのエでございます。多様な健康づくりの機会の創出のための融合策や新規リーディング事業につきまして、来年度からの本格的な実施に向けて、さらに「推進本部」や「プロジェクトチーム」、「若手職員検討チーム」による検討を進めて参ります。

なお、これまでのプロジェクトチームによる検討結果を踏まえ、今後、具体的な検討を進める各局区等の施策の融合例といたしまして、「市民すこやかフェア」や、「区民ふれあい事業」をはじめ各種イベントと連携した「健康長寿のまち・京都」の取組、食育セミナーにおける第一市場・第二市場の取組紹介及び食材使用、市民農園を活用した食育事業の実施、健康づくりサポーター等との連携による各区等ウォーキング事業の実施、健康づくりサポーター等との連携による公園内の健康遊具等の案内板設置など、健康情報の充実の5点を挙げております。

関係局区の皆様方には、これらの融合策の実施に向けまして、引き続き御協力いただきますようお願いいたしますとともに、「プロジェクトチーム」におきましては、これら以外にも事業アイデア等をいただいておりますので、引き続き検討を重ねて参ります。

次に、「3 「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」準備会の設置について」でございます。

(1) 目的につきましては、健康づくりをオール京都の取組として推進するための運動組織として、幅広い市民団体や民間企業、さらには大学、寺社仏閣等により構成される「市民会議」を立ち上げるものでございます。

(2) 準備会の設置につきましては、まずは、今秋に取組に賛同いただける団体等により「準備会」を設置いたしまして、組織のあり方や活動内容を決定するとともに、更なる運動の拡大に向けた賛同団体の呼びかけを行って参りたいと考えております。

なお、準備会につきましては、「健康長寿のまち・京都」キックオフイベントにおきまして、設立発表及び構成団体の紹介を行わせていただくこととしております。

(3) 構成団体につきましては、現在、プロジェクトチーム等の御協力の下、合計約70の団体等につきまして、参画の呼びかけを進めているところでございます。アからエに記載のとおり、各ライフステージに応じた健康づくりの推進、「食文化」、「運動」といった活動分野に応じた取組の推進、また、健康づくりの活動の場や機会の提供等に協力いただける団体等に加え、市民に対して戦略的な広報活動を進めるため、マスコミ、出版社等を構成団体としております。

具体的な構成団体名につきましては、7ページの別紙の一覧表を御覧ください。

ここでは、現在、参画の呼びかけを進めております団体につきまして、区分ごとに示しております。

現在、調整中ではございますが、大半の団体からは前向きな御意見をいただいているところでございます。

資料の4ページにお戻りください。

(4) 健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」の正式発足に向けた組織のあり方及び活動内容の検討（素案）についてでございます。

「市民会議」につきましては、今秋に準備会を立ち上げた後、来春頃の正式発足につきまして検討しており、今後本市の基本的な考え方を示しながら、組織のあり方と活動内容につきまして、準備会において意思形成を図っていくことを考えております。

まず、アの組織のあり方でございます。

取組に賛同する市民団体、民間企業、大学、宗教関係団体等を構成団体といたしまして、規約に基づく任意団体として設置いたします。

保健福祉局に事務局を設置いたしまして、各構成団体との連絡調整等に係る事務を行いますとともに、活動方針等の重要事項を組織決定するために、構成団体の中から選任をいたします代表者10名程度の世話人会を設置いたします。

また、必要に応じまして、課題やテーマに応じた取組を重点的に検討、企画、実行するために、関係の構成団体によるワーキンググループを設置いたします。

さらには、著名人の方に「健康大使」、「応援団」等への就任を依頼いたしまして、「健康長寿のまち・京都」の取組や理念の情報発信に協力いただきたいと考えているところでございます。

イの活動内容についてでございます。更なる運動の拡大に向けた賛同団体の呼びかけや健康づくりの理念、取組の普及啓発、情報発信等への協力、また、ライフステージごと、活動分野ごと、地域・職域ごとなどの健康づくりの企画等を進めて参りたいと考えております。

「市民会議」の概念につきましては、資料の下に図示しております。

5ページを御覧ください。

「4 「健康長寿のまち・京都」キックオフイベントの開催」についてでございます。

(1) 開催趣旨でございます。「第24回市民すこやかフェア」の中で、市民全体で健康づくりの機運を高めていくための契機として、キックオフイベントを開催をするものでございます。

(2) 日時・場所でございます。「市民すこやかフェア」のメインステージでのイベントとして、11月29日の日曜日の午前9時3

0分から約1時間開催いたします。門川市長に開会の御挨拶をいただいた後、準備会の設立発表と構成団体の紹介、「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた取組といたしまして、準備会の構成団体代表者による「健康づくり宣言」を実施し、さらに健康づくりサポーターによる健康体操実演などの内容としております。

また、「市民すこやかフェア」の開催期間である11月28日の土曜日、29日の日曜日において、健康運動の体験や健康情報の提供等、健康に関わる企業、団体、さらにはプロジェクトチーム等の皆様にも御協力いただきまして、「健康長寿のまち・京都」のPRブースを出展いたします。

なお、資料の最後に、参考として、キックオフイベントのチラシを添付しておりますので、後程御覧いただければと存じます。

最後に、「5 市民参加の下での「健康長寿のまち・京都」の目標設定やロゴマークの制定」についてでございます。

(1) 趣旨につきましては、全ての市民の皆様健康寿命の延伸に向けた取組に理解をいただき、積極的に健康づくりに参加していただくための取組として実施していくものでございます。

(2) 取組内容につきましては、「健康長寿のまち・京都」の目指すべき将来像や、「健康長寿のまち・京都」の実現に向けて、一人ひとりの市民が取り組むべき活動内容を、分かりやすい目標として設定いたします。「健康長寿のまち・京都」の取組を広く普及啓発するためのロゴマークを制定させていただくものでございます。

具体的には本市と準備会において、あらかじめ基本的な考え方を整理させていただいたうえで、準備会の取組として、広く市民に公募して案を募り、今年度中に制定して参りたいと考えております。

また、来年度以降、各局区等の健康づくりに関する事業の広報や「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」の各構成団体の活動を通じまして、積極的に目標及びロゴマークの普及を進めて参りたいと考えておりますので、各局区等の皆様の御協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

資料の説明は以上でございます。

居内保健医療・
介護担当局長

ただいま事務局から御説明をさせていただきました。

御意見、御質問、またそれぞれの局区での取組等ございましたら、よろしく願いいたします。

(挙手あり) 産業観光局さん、よろしく願いいたします。

村上産業観光局長 資料の3ページの具体的に検討を進める融合策の例の中に、「食育セミナー等における第一市場・第二市場の取組紹介及び食材使用」、「市民農園を活用した食育事業の実施」などの食に関することを御紹介させていただきました。

健康長寿の取組として、食の取組は分かりやすいし、市民の方に興味を持っていただきやすいと思います。

特に「市民農園を活用した食育事業の実施」については、久我の市民農園に簡単な調理の施設や加工施設があるので、そこで市民の皆様にもまず京野菜の栽培とか野菜づくりを体験いただき、その後に加工施設を利用して、調理等を行いながら、食育指導員さんのお話を聞き、手も動かして、目で見ても、実際に野菜等に触れながら、食を体験で学んでいただくことが有効な普及啓発になるのではないかと思います。

農業の側から見ても、消費者の方々に作るということから事業の御理解をいただくことは重要なことですので、双方に有意義な取組になるのではないかと思います。先ほど、団体、枠組みなどの全体のお話しがございましたが、今後は、その中で具体的な事業を色々提案することで、多くの方に興味を持って参加していただけることになるのではないかと思います、御紹介をさせていただきました。

居内保健医療・
介護担当局長

ありがとうございます。

具体的に市民の方が実際に体験型の事業の中で食育に関する事業に御参加いただく、シェアを広げていく、健康について考えていく、そういう関係が良いなと思いました。

他にございますでしょうか。(挙手あり) 第一市場さん。

山本産業観光局
中央卸売市場第一市場長

同じ産業観光局の話ですが、私ども第一市場は魚と野菜を扱っております、健康長寿のこの取組で、今御説明いただいたような形で、市民の意識が高まっていくのは大変ありがたいことでもあります。そのような運動が広がっていく中で食という切り口で、例えば魚食と菜食が広がっていくということは、私どもの市場の事業者にとりましては、販路を作っていくことにつながります。市場には、300の会社、3,000人の従業員の方々がいらっしゃるのですが、そういう方々は、自分のこととして、商売に関わるようなこととして真剣に取り組んでいただけたと思いますし、私どももそのように働きかけて参ります。その中で具体的な話ですが、ライフステージごとに色々な団体に色々な打ち込みをしていくといったお話しがございましたが、我々も既に手を付け出しているところでござ

いまして、ひとつは「料理教室」というものを実施しておりますが、大変好評でございます。特に、小学校で「出前板さん教室」というものを実施しております、小学校に食材を持ち込んで料理教室を実施しており、これが非常に評判が良く、これが色々なライフステージごとの団体に広がらないかなと思っております。地域、施設、児童館、学童など、そういったところにもそういうものを持ち込んで、食育とともにその食材の販路にするということができれば、我々にとっても非常に面白いと思います。色々コラボをさせていただけるような、御紹介いただけるようなものがあれば、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一つは、皆様が所管されている様々な施設で、食事を出しているようなところ、例えば給食とか、そこで調理しておられるところなどがあれば、そこで扱っている食材について、どこから入っているのか意識をお持ちいただけるようにお願ひしたいと思ひます。

例えば市場経由で保育所の近所の魚屋さんに食材が入っているのであれば、地域の流通が確保されているということになりますが、そういうことが全く考えられないとしたら、例えば給食業者任せになっていて、大阪などから食材が入っているということであれば、地域経済上よろしくないということでもあります。これらについて新年度の契約などもあるかと思ひますが、そのあたりで、食材が地域でうまく流れているのか、そこにも意識を向けていただきたいと思ひます。

居内保健医療・
介護担当局長

既に御案内のところですが、これからの取組の大きな柱として、「食べること」と「体を動かすこと」、「食」と「運動」を柱としています。食育と言う観点から狭い範囲で考えていくのではなく、今御提案いただいたような色々な既存事業の中で、市民の皆様の食に関する取組について、関係各局区等と更に連携を深めて、進めたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(挙手あり) 右京区さん。

西田右京区長

右京区では、10月24日(土)に開催した「右京区民ふれあいフェスティバル2015」において、フェスティバルの式典に引き続きまして、「健康長寿のまち 右京推進プロジェクト」キックオフイベントを実施しましたので、報告させていただきます。

当日は、門川市長、市会、国会、府会の先生方をはじめ、来賓及び来場の区民の立会いの下、大学、NPO、企業関係者を含め、幅広く区内27団体に参画いただき、本年8月27日に立ち上げた「健康長

寿のまち 右京推進プロジェクトチーム」のチームリーダーで、右京まちづくり区民会議座長でもある大阪大学特任教授土井勉先生から、区民ぐるみで健康づくりに取り組むことを宣言いたしました。

また、健康長寿ゾーンを設けて、健康チェックやロコモ度テスト、筋トレなどの体験コーナーなどを実施したところ、行列ができる盛況ぶりで、区民が健康づくりの第一歩を踏み出すきっかけづくりに寄与することができたと考えております。また、新たにのぼり旗を20本作り、プロジェクトチーム参画団体のブースに立てまして、会場全体で健康づくりの機運を高められたかなと思っております。

10月29日に開催されました第4回健康長寿のまち・京都推進プロジェクトチーム会議で、当日の写真を入れた資料を配布させていただきましたので、御覧いただけたらと思います。

右京区では、この間、自治会連合会、社会福祉協議会、民生児童委員会、体育振興会、保健協議会等の各種団体との懇談会のほか、各学区の敬老の集いなど、体育祭のイベント等あらゆる機会を通して、「健康長寿のまち・京都」、「健康長寿のまち右京」の取組を発信した結果、最近、それらの団体の長の方が、様々な場面で「健康長寿」の取組、必要性に触れていただくようになりました。市民力や地域力を源泉とした「健康長寿」の理念が広がりつつあると感じております。

今後の取組につきましては、健康長寿のまち右京推進プロジェクトチーム内に設置いたしました、「普及・啓発」と「企画・融合」という2つのワーキンググループによりまして、検討を進めておりますが、既存の事業の融合や開催時期を調整して、右京区の各所でウォーキングを実施している「ウォーキング統一デー」みたいな取組を3月ぐらいに実施できたらと考えています。

また、右京区内に数多くある寺社仏閣や太秦映画村、大学を活用した事業の実施等、区役所ならではの地域に根差した取組を検討したいと思っております。

御報告は以上でございます。

居内保健医療・
介護担当局長

区での取組というのは、まさに市民の皆様に直結したものだと思います。右京区さんについては、これまでも先行してモデル的に実施いただいているところでございます。今後ともよろしく願いいたします。
(挙手あり) 建設局さん。

藤原建設局長

3ページに記載されている、具体的に検討を進める融合策の例の一つに、「健康づくりサポーター等との連携による公園内の健康遊具等の案内板設置など、健康情報の充実」についてですが、この間、私どもの

局で取り組んできた、状況、それから今後の予定を含めて、御報告させていただきます。

御承知のとおり、京都市内には約900箇所の公園がございます。その中で、背伸ばしベンチ、ウォーキングベンチ、ぶら下がり器などの健康遊具を設置している公園が現在59あり、遊具の数では166基ございます。今後も新たな公園の整備、リニューアル等の機会を捉えて、健康遊具の設置を進めて参りたいと思っておりますので、御報告させていただきたいと思っております。

また、健康遊具につきましても例として申し上げた器具以外に、健康・運動面で、もっとこういうものが効果が高いのではないかと、などございましたら、是非とも専門的な部署から積極的な御提案、御提言をいただければありがたいなと思っておりますのでございます。

今後、健康づくりサポーターさんを中心に、地域の公園を使って様々な発想の機会づくりをされる際には、是非とも公園の日常的な維持管理、除草、清掃、公園の利用調整まで担っていただいております「公園愛護協力会」というものが650公園にございますので、愛護協会と十分に連携いただく、場合によっては御参画いただく、そうなるとうれしいなと思っておりますのでございます。

あと、2点について、私の個人的なお願いを含めての話でございますが、まず1点目は、ソフトであれ、ハードであれ、事業を進めていく際、施設整備の際にはどうしても先立つものが必要となって参ります。是非、推進本部会議の中で、資金を調達する術、例えば、健康関係の事業者からCSR活動の一環として、御寄付いただくような仕組みやその受け皿となるファンドの設立など考えていただければ、ありがたいと考えております。

それから2点目は、私のような田舎出身の人間からしてみますと、田舎の高齢者の方は元気です。亡くなる直前まで農作業をして体を動かされている、採れた新鮮な野菜を食べていることなどに尽きるのではないかと思います。食や運動など、健康づくりに効果があることが日常的に行われていることが秘訣であると普段から思っています。

健康長寿を実現していこうと思えば、「農ある暮らし」の普及をもっとやっていくべきだ、と日常的に思っております。産業観光局の所管になるかもしれませんが、まちなかの休耕田などもありますし、そういうところで、もっと土地所有者の方の御理解をいただきながら、市民農園のようなものをどんどん作っていただき、なおかつ安くでお貸しいただきたい、また場合によっては、プロの農家の方から手解きをしていただけないかと思っております。そういうことによって、リタイア後の時間を有効に使えて、しかも体を動かして、おいしいものも食べ

られる，そうすることによって，ロコモ症候群にもならない，認知症に予防にもつながるのではないかと思います。

そういうことを京都のまちでできないのかなと日々思っていますので，御検討いただければうれしいなと思います。

居内保健医療・
介護担当局長

具体的な御提案をいただきまして，ありがとうございます。
公園愛護協力会については，後で事務局の方で調整させていただきたいと思います。

ほかに御意見はございませんか。なければ，以上で，第2回目の健康長寿のまち・京都推進本部会議を終わります。

これからもこの会議での取組等を踏まえまして，更に磨きをかけて取組を進めて参りたいと思います。

本日はお忙しい中，どうもありがとうございました。

<午前10時終了>